

学習田の収穫に歓声

管内の学習田で収穫シーズンを迎えた9月から10月にかけて、小学生が稲刈り作業に汗を流しました。

9月21日(火)には秋田市立飯島南小学校の5年生が秋田厚生医療センター近くの学習田で、「あきたこまち」を刈り取りました。春の田植え体験から稲の成長を日々見守ってきた子どもたちは、待ちに待った出来秋に笑顔を見せていました。

児童の中には田植えや稲刈りが初体験という子が多く、不慣れながらも田んぼに足を取られたり怪我をしたりしないように、注意しながら鎌で田んぼの中を刈り進めました。友達と協力して、稲をコンバインに運ぶ姿も見られました。



稲を刈り取る児童

介護事業所約20年の歴史に幕

当丁Aの介護福祉事業の廃止に伴い、介護事業所が9月30日(木)をもってサービスの提供を終えました。当丁Aの前身であるJ A新あきたとJ A秋田みなみのホームヘルプ事業所は平成13年に始まり、秋田市外旭川のデイサービスセンター悠楽館は平成17年に開所しました。約20年にわたって多くの利用者やご家族の方々にご利用いただき、誠にありがとうございました。

最終日の同日、デイサービスセンター悠楽館には7名の利用者が訪れ、職員も交えてレクリエーションを楽しんだり、いつものようにおやつを味わったりしました。利用者や職員はお互いの今後の健康や、元氣な再開を願いました。



最終日の利用者の皆様と職員

NEWS & TOPICS

効率的な種子供給へ設備更新要望書

10月5日(火)、佐藤広美組合長が上新城種子センターを視察し、水稲種子の供給にかかる作業の流れや機械設備の性能などを確認しました。8日(金)には同センターを運営する(一社)耕壤会種子生産組合が当丁Aを訪れ、老朽化に伴う施設設備の更新に向けた要望書が提出されました。

同生産組合では23戸の生産者が46ヘクタールで水稲種子の生産を担っており、同センターから「あきたこまち」や「めんこいな」、「ぎんさん」や「サキホコレ」といった県内の主力品種の種子が供給されています。今後も水稲種子の供給を効率的かつ安定的に続けるため、老朽化に対応した更新計画を進めていきます。



種子の安定供給に向けた要望書を受け取りました

秋田市園芸振興センター冬期農業研修開講式

秋田市園芸振興センターの冬期農業研修の開講式が、10月7日(木)に同センターで行われました。10〜60代の4名が半年間で、冬期間における野菜や花きの栽培管理を学びます。

同研修は10月から3月の冬期間に、園芸品目の栽培実習をはじめ施設設備や品種選定についての講義なども行うもので、今年で8期生となります。冬期間の作付けを促進することで周年型の農業経営を普及させ、生産拡大や所得の安定化を目指します。

研修に参加する(株)四ツ葉ファームの長谷川拳太さんは「ホウレンソウなどの葉物野菜の冬期栽培の技術を磨きたい」と意気込みました。



野菜や花きの冬期栽培への意欲を高める研修生

